

# SSKR まうんてんえこお

## NO.313

### 社会福祉法人 練馬山彦福祉会

#### 本部

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9  
TEL(03)3998-5023 FAX(03)3998-5035  
http://nerimayamabiko-hukushikai.jp/

#### 山彦作業所(就労継続支援B型)

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9  
TEL(03)3998-5023 FAX(03)3998-5035  
Email:yambk@mvi.biglobe.ne.jp

#### 山彦相談支援事業所(相談支援)

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9  
TEL&FAX(03)3970-2365  
Email:ymbksoudan@xqd.biglobe.ne.jp

#### やまびこ第二作業所(就労継続支援B型)

〒179-0081 東京都練馬区北町7-20-36  
TEL(03)3933-8935 FAX(03)5398-7681  
Email:ymbk2@mue.biglobe.ne.jp

#### やまびこ第二相談支援事業所(相談支援)

〒179-0081 東京都練馬区北町7-20-36  
TEL&FAX(03)6906-9803  
Email:ymbk2-soudan@xvd.biglobe.ne.jp

#### ワークショップ石神井(就労継続支援B型)

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4  
TEL(03)5923-9811 FAX(03)5923-9812  
Email:yamabiko@shakujii-work.jp

#### チャレンジワークやまびこ(就労移行支援)

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4  
TEL(03)5923-9864 FAX(03)5923-9865  
Email:challenge@shakujii-work.jp

#### ワークショップ石神井相談支援事業所(相談支援)

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4  
TEL(03)5923-9818 FAX(03)3997-3650  
Email:soudan@shakujii-work.jp

#### やまびこ三原荘(共同生活援助)

〒178-0063 東京都練馬区東大泉  
TEL(03)3978-6352 FAX(03)5935-6320  
Email:miharaso@mue.biglobe.ne.jp

### 目次

表紙 フードパントリー

P2 フードパントリー記事

P3 法人本部 事業計画

P4 山彦作業所 事業計画

P5 やまびこ第二 事業計画

P6 ワーク 事業計画

P7 チャレンジワーク 事業計画

P8 やまびこ三原荘 事業計画

P9 相談支援事業所 事業計画

P10 やまびこのかぜ(三原荘)



3月18日(土)

雨の中、

やまびこ第二作業所にて  
フードパントリーを開催!

(詳細記事 P2)

## 3月フードパントリー開催

23年3月18日（土）に法人企画としてやまびこ第二作業所を会場としてフードパントリーを開催しました。先ずはフードパントリーの説明と実施に至った経緯、当日の様子を報告致します。

### はじめに

フードバンクはよく耳にするのですが、パントリーと聞くのは初めての方も少なくないと思います。内容は同じなのですが、常設をしているのか臨時・単発なのかによって、その呼び方が変わるそうです。ですので今回の企画は「パントリー」と呼ばれるとのことで、そのことも企画を進める段階で分かってきたことでした。

まず、この企画の出発は生活困窮者の増加が社会的な問題になってきていること、また実際に法人の利用者の生活実態を見るにつけ、「何か為になることをやりたいね」から始まったことです。ただ、いつもこちらから、バザーや署名・カレンダー販売・夏季商品等と、関係者や地域の方にお願いや協力を仰ぐことや、与えられるばかりで、それとは別に「自分達から何かしたい」と強く思っていたことでした。

### どうやってやるの？

食材や日用品集めは、山彦作業所、やまびこ第二作業所、ワークショップ石神井の3カ所で行いました。先ずは手初めてという事で主にスタッフや関係が近い方々に

物品の提供を依頼したのですが、短期間で多くのものが集まりました。それを第二作業所で集めて品数やボリュームを見ながら、来られた方々にお渡しできるようにビニール袋に小分けにしました。食品、飲物、お米、日用品、等々を均一になるように分けることが難しかったのですが、何よりも「当日は本当に人が来るの？」と不安も大きかったです。初めてのことで不明なことばかりだったので、前日までに数件の問い合わせがあったことが大きな支えにもなりました。

そしてそんな中、法人としても今回の企画の重要性を考慮し、後援会企画から法人企画への変更になりました。最終的には法人企画と位置づけて準備を進めていきました。

特に行政の方から「必要だと思われる方に開催のチラシを渡したいが良いでしょう



■お米、食料品、日用品等々をセットにして袋に入れてお渡ししました。

か？」「すばらしい取り組みですね、応援しています」、ホームページから調べて問い合わせがあった方もいたり、反響の大きさにワクワクしていたことも事実です。

### 当日の様子とその後

当日はあいにくの大雨でしたが25名の方が来られました。雨の中、開始前から5名の方が並ばれていました。

来られた方の中には「やまびこ第二作業所のOB」の方もいたりでした。口々に、「こんなに頂けるんですか？」「お米があると助かります」等と、来られた方全員に「ありがとう」と言っていたいただき、改めてこの企画を実施して良かった、との思いとなりました。

22年9月にやまびこ第二作業所はこの田柄に移転したのですが、当日はご近所の方も来られたりと、地域の方々に喜んでいただけただけの企画だったと思います。

その後は、第二作業所には多数の連絡が来ました。例えば教育関係の方から「次回もこのような企画があったら教えていただけませんか？」とあったり、地域の方から「必ずやってほしい。ありがたかった」、関係者から「今度はいつやるんですか？」とあります。法人として、今まで障害福祉分野での活動が主でしたが、今回のように新しい分野に一步踏み出したことの反響の大きさに驚いています。

「次回もやりたいね」と、法人内では話し合っています。ご協力頂いてありがとうございます。少しでも地域の役立つ法人でありたいと考えています。（以上）

# 法人本部 2023年度事業計画

昨年度は、山彦作業所の建物の区からの買取りや大規模改修、やまびこ第二作業所の移転があったりと法人にとって大きな動きのあった1年でした。

またコロナ禍において、それぞれの事業所で感染者が出て対応に追われた年でもありませんでした。そんな中、やまびこ三原荘では1人の感染者も出ておらず、生活の場だけに一番心配していましたが、職員・利用者同士で細心の注意を図り対応してきました。今年度も各所でコロナ感染にとどまらず安全に十分配慮しながら事業運営にあたっていきます。

## 1. 人材育成について

1977年10月に山彦作業所を開設し45年が経ちました。この間世代交代により職員の育成が緊急の課題となっています。時代は変わっても障害者の置かれた環境は依然として厳しいものがあります。支援の充実を図る観点から人材育成は欠かせないものであり、継続していくために職員研修のあり方や内容の工夫を考慮し実行に移していきます。具体的には、①虐待防止研修、②経験に応じた研修、③法人内の事業所研修を実施または参加していきます。

## 2. 中長期計画の策定

昨年度から担当者を各事業所から選出し話し合いを重ねています。その話し合いを基に

職員全体で考える仕組み作りも同時に行なうてコミュニケーションを図りながらみんなが納得した計画を作り上げていきたいと考えています。計画そのものも大事ですが何より作る過程の話し合いを大切にしていきます。

## 3. 相談支援事業のあり方の検討

現在、就労継続支援B型3施設にそれぞれ相談支援事業所が併設していますが、経済的に厳しく相談支援員が兼務の為にB型事業所の職員不足を何とか解消したいと検討してきました。その結果、一部一緒に行うことで時間の無駄を省いたり協力して行えるような取り組みを行ってきました。

3ヶ所の相談支援事業所が統合して1事業所として運営出来ないかと現在定期的な会議を行い検討しています。23年度はさらに具体的に協力体制を深め事業の継続・発展のために検討を重ねていきます。

## 4. 就労移行支援事業所のあり方の検討

就労移行支援事業所を創設して丸6年が経ちます。同事業は成果主義の色合いが濃く運営が不安定になりやすい制度的な仕組みとなっていますが、そのような仕組みの中でも確実に就労の実績をあげています。ただ、就労者が出ると欠員となり次の人が入所するまで収入につながらなくなってしまいます。安定した運営を継続するためにも法人内で協力しな

がらより健全な事業所の在り方を模索していきます。

## 5. 事業継続（BCP）の策定

この3年間はコロナ感染予防で世界中が振り回されました。法人内においてはコロナ感染予防で毎日の消毒や様々な報告等の業務量が確実に増えています。また、特に精神障害者の事業所では通所者の激減が目立っています。感染予防だけでなく、天災等に備え、いざという時のためにマニュアルや計画をたてていく必要性を痛感しています。2022年度から障害福祉関係において施設等でBCP策定や研修、訓練等が義務化されました。実効性の確保・向上の為に積極的に受けていきたいです。

## 6. 法人としての社会貢献事業

社会福祉法人として、より地域に開かれた施設運営を目指し、社会貢献活動を検討していきたいと考えます。昨年度末に法人主催の「フードパントリー」（品物を集めて実際に必要な人に無償で提供すること）を、やまびこ第二作業所の敷地内で初めておこないました。取り組みを通じて、今後の地域貢献の可能性を見出ししていきたいと考えています。また、子供食堂など作業所の設備を利用し地域貢献ができるような活動を検討し実行に移していきます。

# 山彦作業所 2023年度事業計画

## 2022年度概況

昨年度は山彦作業所の練馬区からの建物買取りや大規模改修、エアコン工事がありました。またコロナ禍においては、感染者が出て対応に追われた年でもありました。

作業については生産性だけに囚われないよう、メンバーの意向や要望に沿って、未経験の作業でも参加しやすいサポートを心掛けました。作業種目ごとにできる人数が増え、全体の効率化に繋がりました。

### 2023年度の重点的な取り組み

#### 1 利用者の生活を豊かにする為 工賃額を上げていく

昨年度に引き続き、ダイレクトメールの封入、マグネット部品の組立、公園清掃、弁当事業が工賃へ反映される主な作業となります。昨年から入所したメンバー達の作業順応も高く、今年度は今できる仕事の効率化を図り、生産性を高めることで工賃UPを目指します。また、他事業所への見学や利用者の特性に合う新規作業の情報収集に努めていきます。

#### 2 利用者の希望や夢を実現する為 利用者や家族に寄り添う支援を行う

利用者本人の希望、要望を感じ取る為にレクリエーション等を通して、新たな気持ちの変化を探り、日々の活動へ活かしていきます。また今年度は対面での家族会を行い、改めて思いを交わしていければと考えています。

1, 2, について定期的な会議の開催、常勤職員だけではなく、非常勤職員を含め活発な意見交換、情報を共有する時間を設けていく。

#### 3 山彦作業所に関わる全ての職員が 支援員としての業務の理解と スキルの底上げをする

職員の経験年数に応じて支援員としての視野を広められるような研修を取り入れていきます。

初任者研修は障害者の権利条約の内容を理解し、支援者として基本となる価値観・倫理観を身につけていきます。

中堅職員は工賃向上セミナーへの参加や他事業所の見学等を通して新規作業の獲得を目指します。

また、虐待防止の観点から利用者に関わる全ての職員に対して研修を行い、利用者の人権を最大限に尊重する支援を行う為、職員間で日常の支援のあり方を検証・確認します。

### 事業の基本理念

・山彦作業所は障害者の働きたいという願いに応えます。

・山彦作業所は仕事を通じて利用者の物心ともに、豊かな地域生活を目指します。

・山彦作業所は地域福祉の充実を目指します。

### 事業概要

・事業種別

就労継続支援事業B型

・主たる対象者

知的障害者 精神障害者 身体障害者

・利用定員 30名

・職員構成

管理者 1名

（サービス管理責任者兼務）

職業指導員 1名

生活支援員 1名

目標工賃達成指導員 1名

非常勤 3名

栄養士 1名

調理員 4名

事務員

### 事業計画（抜粋）

・作業種目

①ダイレクトメールの封入

②マグネット部品の組立

③弁当事業

④公園清掃

・食事提供 毎昼

・個別支援計画の策定と個別面談

・健康診断の実施

・行事、レクリエーションへの参加

## やまびこ第二作業所 23年度事業計画

### ☆2022年度を振り返り

○22年9月に、40年近く過ごした北町から、新たに田柄に引っ越しをしました。現在は順調に活動しています。

○コロナ禍、加えて事業所の移転等がありましたが、工賃額は昨年以上となりました。

工賃時給は390円ほどでした。

○就職された方が2名いました。

○行事・レクが出来ずに、ストレスがたまり気分転換が出来ない方が多かったです。

### ☆2023年度の重点課題

1、レク・行事の早期実施を図ります。利用者間の交流や相互理解を図ります。

2、関係機関との連携を強めて、高齢になった利用者や、少しばかり体調が悪くても安心して通える様な作業所を目指します。

3、利用者の可能性を伸ばすことで、今まで以上に難しい作業等もできるようにしていきます。職員がやっていた作業を、利用者にも伝えていきます。

### ☆2023年度 取り組み

#### 1. 支援の充実

コロナ感染防止対策を継続し、安心して通えるように努めます。コロナの影響により気分転換がしづらくストレス発散が難しい状況が続き、不調を訴える利用者が多くなっています。作業以外の取り組みとして、利用者同士の接点を増やし、

お互いの理解に繋がるようなレクリエーションを企画していきます。また、健康課題を抱えている利用者や高齢の利用者も多いため、健康へ関心が向かうよう働きかけます。

関係機関との連携の維持・向上に努めながら、支援をしていきたいと思えます。

#### 2. 作業支援の充実

受注した作業は丁寧・正確に取り組みます。

作業支援では、互いに関わり合うきっかけをつくり、協力することや他者への理解に繋がるような働きかけを行います。また、職員が行っていた部分を利用者の力を発揮する機会と捉え、より主体的に動き、自信に繋がるよう工夫して作業をすすめていきます。

個人で行う作業の他にグループで協力し合いながら行えるよう、工夫や配慮をします。互いに協力しあうことにより、相互に関わり合うきっかけをつくり、他者への理解につながれたら、と考えています。

新たな公園清掃の受注が出来ました。やり方・役割等を利用者と話し合いながらしっかりと仕事をしていきます。

#### 3. 建物移転に関して

より過ごしやすいように、利用者の意見を聴きながらレイアウトを再考していきます。一緒に活動している2事業所と

協力しながら気持ちよく過ごせるよう努めます。地域の方との関係を大切にしていきます。

### ☆事業概要

就労継続支援B型

事業名

主たる対象者 精神障害

利用定員 30名

職員体制

常勤 4名（施設長・支援員）

非常勤3名（支援員） 現在募集中

### ☆事業理念

1. 障害のある人たちが、働く事を通して社会に参加し、自己実現を果たせるように支援します。

2. 地域の一員として豊かな人生を送ることができるよう支援します。

3. 働く場・生きがいの場を保障します。

### ☆事業計画（抜粋）

・個別支援計画の策定と個別面談

・健康診断の実施

・メンバーミーティングの実施

・関係機関との連携強化と維持

・週間作業予定表の掲示

・地域との関わり

・建物の移転に関して

・虐待防止について

・非常災害時の対応

以上

# ワークショップ石神井 2023年度事業計画

## ☆2022年度を振り返り

2022年度もコロナ禍での事業運営を余儀なくされました。東京都及び練馬区の感染拡大防止事業に協力し、職員・利用者ともにそれぞれ抗原検査を定期的に行い、感染拡大防止に努めました。

作業については、工賃増額を図るために新規で2社と作業を受注する契約を結びました。それから、自主製品販売の売上を増やすために、「ねりいち」への出店や「ねりいちポータル」への参加を始め、ねりいちポータルを運用するレインボーワークから自主製品についての取材を受けました。

また2022年度内で新規利用者を6名受け入れるなど、練馬に暮らす精神障害者の活動する場所としての役割を果たすことに努めました。

## ☆2023年度の重点課題

### 1、利用者の通所目的と生活課題に応えます

- ①ウイズコロナを見据えた支援
- ・2023年度も引き続き事業所全体として感染防止対策の徹底を継続します。
- ・感染防止対策を徹底しつつもコロナ禍前の活動に少しずつ戻していきます。
- ②就職を希望する利用者や就職可能な利用者への支援
- ・練馬区障害者就労支援センター、チャレンジワークやまびこ等と連携して取り組みます。
- ③加齢で腰痛などからの痛みが出ている利用者への支援

- ・毎日、体操と「鎌田式かかと落とし」を継続。
- ・また前年度に引き続き「練馬区出張健康づくりセミナー」等を活用して健康に関する講座を開きます。
- ④高齢家族と暮らしている利用者への支援
- ・家族と離れて暮らすことを余儀なくされた場合の想定を少しずつ進めていきます。
- ・グループホームで暮らしている人の情報などをわかりやすく提供していきます。

### 2、作業収入を増やします

- ①作業の進め方を見直す
- ・様々な理由により長い時間働くことが困難な人が増えてきており、受注作業が思うようになせなくなってきました。そのため、色々な人が活躍できるように、作業環境の見直しや作業工程を細分化するなどの工夫をしていきます。
- ②作業量を増やす
- ・従来の封入作業に加えて、農福連携や練馬区共同受注作業、ナチュラル雑貨をメインとした自主製品作業などの比較的新しい作業を継続して行い、規模を拡大していきます。また助成金を活用しながら新規作業の開発も模索していきます。

### 3、リスクマネジメント体制を強化します

- ①非常事態への対応に備える
- ・毎月の職員会議で非常時の検討をしていきます。また、策定したBCPや災害マニュアルを基に、様々な場面を想定した訓練を実施して非常事態に備えます。
- ②職員のチームワークを強化する
- ・日頃から同じ建物内の3事業所職員での打ち合わせ時間を設けて、連携強化を図ります。

## ☆事業概要

- ③経営基盤の安定化を図る
- ・経営の専門家の助言を受けるなど、事業目標を達成するための土台作りを強化します。

事業所名 ワークショップ石神井（就労継続支援事業B型）

主たる対象者 精神障害者  
 定員 30名

職員体制 常勤3名（施設長・支援員）  
 非常勤3名（支援員）

## ☆事業計画（抜粋）

・工賃目標額 時給180円 平均工賃月額 10000円  
 ・作業種目

- ①ダイレクトメールの封入作業
- ②農福連携事業
- ③自主製品
- ④商品パック詰め
- ⑤外勤作業
- ・個別支援計画の策定
- ・個別面談
- ・家族・関係者との連携
- ・行事・レクへの参加
- ・利用相談
- ・苦情窓口
- ・非常災害時対応

# チャレンジワークやまびこ 2023年度事業計画

## 2022年度の概況

一般就労等の状況は以下の通りです。

● 一般就労者 無し

● 職場定着者 1名

（清掃 1名）

### 2023年度の

### 重点的な取り組み

## 1 集団プログラムの充実

メンバーの就労移行期が昨年度後半に集中したことで、今年度すでに2名が入社内定をいただいております。

その入替が重なり年度前半は、メンバーの過半数が利用開始6か月間を満たさず、導入期または訓練期の初期に位置しています。引き続きメンバー間の関係性を育みながら就労準備の学習、職場をイメージした共働の業務や、その中でコミュニケーションなど活きたプログラムの充実を図ります。

## 2 地域との繋がり強化

特別支援学校、盲学校、関係機関、企業、ネットワークと新たな繋がりが出来始めました。これらを点から線に繋ぐような働きかけを推し進め、交流や資源活用で関係性を深め、就労への可能性を広げていきます。

## 3 外部学習会の活用

事業所外での学習機会を活用し、就労意欲向上や客観的な視点の学びを得て、就労準備性の意識付を図ります。

公共機関が開催する外部セミナー（学習会）を始め、事業所外の活動体験から得る就労意欲やモチベーションの向上はその後の就労準備の意識に大きく寄与します。また会場へ公共交通機関を利用するなど、その参加自体が重要な社会体験になり得ます。

### 事業概要

・ 事業名 就労移行支援事業

・ 主たる対象者 知的障害、精神障害

・ 利用定員 6名

・ 職員体制 1名

管理者（サービスマン管理責任者の兼務）

常勤支援員 2名

（職業指導員）

（就労支援員）

非常勤支援員 1名

（生活支援員）

### 事業の基本方針

・ 利用者の働き続けたい想いをサポートします。

・ チャレンジという言葉通り失敗も含めた様々な体験をして学び就労を目指します。

・ 本人の目的とペースに合わせたプログラムを提供します。

・ 福祉就労とは違い、一般企業に貢献できる社員として就職できることを目指します。

### 事業計画（抜粋）

#### 就労移行支援の内容

- (1) 生活支援
- (2) 就職支援
- (3) 就労実習
- (4) 定着支援

#### 段階に応じた支援方針と体制

導入期、訓練期、移行期、定着期に区切り、個々の能力や段階に合わせて個別支援計画を作成し支援する。

#### 苦情解決

別途定める「苦情解決マニュアル」に則り、利用者側の立場に立って誠実に対応する。

苦情受付担当者、苦情解決責任者、第三者委員の氏名と連絡先、相談方法をわかりやすいかたちで事業所内に掲示する。

#### 虐待防止

別途定める「虐待防止マニュアル」に則り、利用者の人権を最大限に尊重し、適切な事業運営を行う。

#### 危機管理

別途定める「危機管理マニュアル」に則り、利用者や職員等の生命を第一に考えた施設管理を行う。

# やまびこ三原荘 2023年度事業計画

## ☆2022年度の概況

- 入居者
- 退居 ↓ なし。
- 入居 ↓ 6月に男性1名、11月に女性1名の計2名。入居前の住居は、一人暮らし1名と精神科病院（入院）1名。年度末で在籍が17名（通過型8名、滞在型9名）で満室。

## ☆2023年度の重点的な取り組み

- 入居者支援の充実
- 入居者の健康維持や生活能力の向上を図ります。そうじ、入浴、着替えなどの清潔保持などの支援を充実します。
- 高齢の入居者については、日中活動の在り方について検討します。
- 入居者の居室への訪問の機会を増やし、状況の把握とそれに応じた支援をすすめていきます。
- 通過型の入居者に対して、入居期限後の生活に向けた支援を計画的に行っていく予定です。
- 食事提供について、新型コロナウイルスに注意しつつ入居者や職員の希望や不安を考慮してできる範囲のことを検討します。
- しばらくできていないレクリエーションなどを通じて、入居者や職員と一緒に楽しむ三原荘本来の支援ができるように検討します。
- 高齢化の為、入居者支援が手薄になってきているところは職員体制の見直し等を検討します。

## ●業務内容の整理、明確化

・BCPも含め、日々の支援マニュアルや緊急時のマニュアルの作成や見直しを行うことで日々の業務内容や非常時の対応など明確化します。

## ●危機管理体制の確立

・災害や感染症など、危機管理体制を見直し、確立します。

## ☆事業概要

### ●事業名 共同生活援助

（グループホーム）

### ●主たる対象者 精神障害

### ●入居定員

- 本体
  - 1階 男性2名（滞在型）
  - 2階 女性4名（通過型）
  - 3階 男性4名（通過型）
- サテライト
  - 1DK4室 4名（滞在型）
  - 2DK1室 2名（滞在型）
  - 2DK1室 1名（滞在型）

### ●職員体制

- 常勤世話人・・・3名
- （うち1名、管理者とサービス管理責任者の兼務）
- 非常勤世話人・・・4名
- 顧問医 1名
- 夜間体制 宿直週4回（月～木）

## ☆事業の基本方針

●入居者の生活の安定を図り、健康の維持増進と生活の質の向上を目指します。

●入居者同士が良好な関係を築いていけるように支援し、交流を図ります。

●安心して快適に暮らせる住環境を提供します。

●関係機関と連携し、地域福祉の向上に資する活動を行います。

## ☆事業計画（抜粋）

- 定期面談 6ヶ月ごと
- ミーティング 月1回
- レクリエーション 年2～3回
- 食事提供
  - 夕食・・・火・木
- （コロナ感染予防の為、使い捨て弁当容器にて提供）
- 朝食・・・火・木・金
- （コロナ感染予防の為、現在中止）
- 昼食（土）
- （コロナ感染予防の為、調理体験は中止し、使い捨て容器にて提供）

以上

## 山彦相談支援事業所事業計画概要

新型コロナウイルス感染症は引き続き様々な制限を生んでいますが、施設訪問や家庭訪問などの直接の面談の回数は増えてきています。23年度も引き続き、可能な限り直接的な面談を増やしていきます。

山彦相談支援事業所では非常勤の兼務職員が一人で相談支援事業を担ってきましたが、勤務形態と業務量が限界に来ており、23年度は常勤の兼務職員と非常勤の兼務職員の2名で事業を続けていく予定です。

### 2023年度に向けて

①モニタリングの実施とその情報整理、共有化に向けた活用を図ります。

モニタリングの実施についてはその数を増やしていくことと、関係する事業所からの情報収集と行い、利用者からの状況の把握に努めます。利用者、家族の高齢化は徐々に大きな問題となってきましたので、単に施設入所やグループホーム利用への対応だけでなく、成年後見制度の活用等についても制度理解を深めていきます。

②三事業所の業務遂行の手順や文書書式の整備を図ります

毎週のZOOMによる会議が定着してきましたが、業務の統一化や文書書式の整備には十分には取り組めていません。23年度は定例の会議を増やし、業務の標準化や情報共有をさらに進めます。そのための支援ソフトの導入について検討を進めていきたいと思えます。

### ③相談支援事業所の今後について

三事業所統一化や業務連携について引き続き検討していきます。昨年の区との協議で事業所の主と従の関係で一体的な運営も考えられるとの見解が示されましたが、このことについては引き続き検討を進めていきます。

### やまびこ第二相談支援事業所

#### 事業計画概要

○お話しを聞きながら業務を進めていきます。相手のペースに合わせて進めていきます。

関係性を大切にしながら、躓きや迷い等が見られた場合には、話しが聞けるよう努めます。計画案やモニタリングは遅れることなく適切に対応していきます。

○山彦3所の協力体制を作っていきます。

守秘義務を堅持しながら、情報や進め方の共有等を図っていきます。そのために定期的な3所の会議に参加をしていきます。

○やまびこ第二作業所との協力関係を強化していきます。

移転後は事務所が隣り合わせとなり、協力体制も進んでいます。お互いにとっても助かることも多く、情報の共有の他にも、実際に事務や作業を相互に手伝ったりする場面も増えています。

### ワークショップ 石神井

#### 相談支援事業所事業計画概要

利用者・家族の相談に応じて必要な情報を提供し、サービスに繋げることが相談支援事業所の役割としてあります。利用者や家族の意向が一致していれば問題ありませんが、違う場合は両者の気持ちにより添って調整してきます。利用者・家族が制度やサービスを理解し納得して選べるように努めています。

制度やサービス等を分かりやすく説明するためには、相談員自身の知識と理解の向上を図る必要があると考えています。

家族・関係者と連携を図りながら安心して相談できる事業所を目指したいと思います。

### 23年度の目標

①利用者の意思決定を支援し、家族や支援者との連携を強化する。

家庭環境と利用者や家族がイメージする将来の生活を把握し、家族間でズレが生じていないか利用者の意思が適切に反映されているか等を確認して利用者にとって最適な暮らしを支援します。

②福祉サービス以外の知識を得て支援の向上を目指す。

対応力や提案力を高められるように、他分野の制度やサービスを学べる場に積極的に参加します。

### ③新たな体制作りに向けて検討する。

BCPの作成を機に、法人内の事業所間で相互に支援し合える体制が整えられるよう検討を重ねていきます。

# やまびこのかぜ

萩原 洋子

私は、2021年の12月に三原荘に入居しました。以前の生活は、旦那が亡くなった後アパートで一人暮らしをしていましたが、精神的、肉体的に安定せずアパートを引き払い精神科病院に9カ月入院しました。

入院の最初の一週間は、個室に入れられて環境の違いから全く食事が取れずとてもつらい思いをしました。その後は、4人部屋に移ったけれどプライベートもないカーテンだけの仕切りのみ部屋でいつも不安で仕方なかったです。6か月後に任意入院になって一人で外に出れたときはとてもうれしかったのを覚えています。

入院中は、他の患者さんとも色々ありました。入院中に患者さん2人が揉めてケンカになってその2人から私にどうしたらいい?と詰め寄られ困ってしまい、スタッフさんに相談しました。スタッフさんからはとにかく関わらないようにと言われてました。私も病気だし、トラブルにならないように詰め寄せられたら「あ、ごめん。今、調子が悪いから」と軽くあしらうことも学びました。入院は辛い経験だったけど、退院される同室の人と最後の夜にみんなで笑えたことはよかったです。

病院の先生やスタッフさんから教えてもらっ

たこともたくさんあります。嫌味を言う人は言わせておけばいい。その人も病気でいるんだから。言われたら言い返せとか、死ぬ気でやっても死なないからとか、大人として責任ある行動をするとか、察してほしい態度をとらないで言葉で伝えることが大切とか。意見の食い違いもあったけどたくさん勉強になりました。



私自身は、入院生活も長引き、住むところもなかったのがグループホームや更生施設に申し込みましたが何度か落されてしまい、やっと三原荘に受け入れてもらったときはうれしくてたまりませんでした。

入院中にお世話になったK先生、ソーシャルワーカーのHさん、看護師さん。退院してから私が住むところを探してくれたケースワーカーのFさん、N保健師さん、今でも毎週お世話になっている訪問看護のAさん。ありがとうございました。その他にも色々な方が親切にしてください感謝しています。

三原荘は、入居者さん、世話人さん、みんな優しく楽しいところです。

三原荘での生活は、デイケアに通いながら体調を整えて買物や趣味などをしながら過ごしています。最近では三原荘でさくら祭りのイベントがありピザを食べました。とても美味しかったです。

私のこれからの目標は、三原荘は3年という期間が決まっているので、ここを出たら近くにアパートを借りて一人暮らしをしたいと思っています。それと、アルバイトをしたいながら生活してみたいです。一人暮らしをしたら手乗りインコを飼いたいと思っています。これからお世話になると思いますが、私なりに色々なことを勉強していきたいです。

## 編集委員より

桜もあつと散り、よいよこれから暑くなつてきますね。よこは、昨年40歳になり、新しい目標を持っていきたいと思ひます。新しい目標を持っていきたいと思ひます。

## 編集人

社会福祉法人 練馬山彦福祉会

東京都練馬区富士見台 2-19-9  
TEL (03) 3998-5023

## 発行人

障害者定期刊行物協会  
東京都世田谷区祖師谷 3-1-17  
ヴェルドウーラ102号室

頒価 20円